



[磯谷郡
蘭越町]

硫酸山の森を育てる会

[報告者]



下島
亘
さん



「きのこ・山菜・カタクリの森」、未来は「きれいな針広混交林」へ。

強酸性土の禿げ山を緑ゆたかな森へ

私たちが活動する硫酸山は、土から天然の硫酸が発生している不思議な場所です。1982年の尻別川の築堤工事の用土として表土が大量に削られ、地下からパイライト(酸性硫酸塩土壌)と呼ばれる特殊な成分の土が露出した結果、雨や空気に触れて自然に硫酸が生成されるようになったのです。以来30年近く、4haほどが禿げ山のままでした。私は2004年から一人でこの硫酸山の緑化に取り組んできました。たくさんの方に応援してもらいながら、10年ほどかけてようやく緑が戻ってきました。

この若い森を、まわりの森と一緒に「楽しい森」「恵み豊かな森」に育てていこうと目標を立て、2014年に「硫酸山の森を育てる会」を発足させました。森林所有者である私と家族、地元の農家、この森に関心のある町内外の人たちの13人がメンバーです。林業のプロは一人もいませんが、みんな森づくりにとても興味がある人たちです。

最初の数年は歩道を整備しました。一面ササ藪だった森に歩道網を巡らせ、どこにでも歩いて行けるようになりました。そうなると、森の中の楽しいこと、たとえば山菜採りやキノコ採り、子どもと遊んだり犬と散歩したり、森に行く楽しみが何倍にも増えます。自由に歩き回れるようになって、この森がグツと身近になりました。

未来のイメージを共有しながら活動

100年先の目標は、この森を、北海道らしい素敵な針広混交林に育てることです。森の半分を占めるトドマツ人工林(40年生、約10ha)では、①強めの間伐を繰り返し、②明るくなった林床に自然に生えてくる広葉樹を大事に育てる、という方法をとっています。また皆伐地に広葉樹の二次林が育っている場所(7ha)では、軽く除伐してからササを刈って地面を露出させ、自然散布の実生苗が育ちやすい環境をつくっています。

100年先はあまりに遠すぎるので、目に見える目標も設定しています。それは「毎日でも通いたくなる

楽しい森」。具体的には「キノコの森」「山菜の森」「カタクリの森」を育てることです。

あまり知られていませんが、トドマツ林は実は最も多種類のキノコを発生させる環境のひとつなのです。トドマツを間伐して地面に適度な光を入れ、後は私たちが歩いてキノコを見つけやすいように、林床のササを刈っています。「教育研修タイプ」交付金(現在は廃止)を利用して始めたキノコ観察会がとても好評で、今も継続しています。

「山菜の森づくり」も方法はシンプルです。山菜を除伐しない、株まわりの日当たりを良くしてやるなど、山菜の生存競争に人間が少しだけ肩入れをする、というやり方です。

カタクリを増やす取り組みも進めています。植えたり播種したりするのではなく、野生のカタクリが自然に増えるのを少し手助けする程度です。2カ所を候補地に選んでササを刈り、少し除伐しました。

環境は少しずつ、小さく変えていくのが大切だと私たちは考えています。調査区を設定して毎年の生育個体数と開花株数を記録していますが、キノコや山菜同様、カタクリの花も着実に増えていて、毎年春の調査がみんなの楽しみになっています。

こうした成果は、私たちの森づくりのモチベーションです。何より「楽しい」というのが一番重要じゃないでしょうか。私たちの活動は、本格的な林業とは言い難い、ささやかなものです。それでも、年間100回の活動回数は多いほうじゃないかと自負しています。交付金活動以外にも、キノコ採りやハイキングなど、メンバーが硫酸山に向かう頻度は飛躍的に増えました。人が森林を積極利用すること、森に足を運ぶことが、里山林再生では何よりも大切なんじゃないか、と私たちは考えています。

